



絵本「きもち」 こあら組(2歳児) 令和元年12月16日

最近のこあら組さんは、自分の思いを言葉で伝えることが上手になってきました。と同時に、自分の思いは精一杯に伝えているのですが、相手の思いを十分に汲み取るまでには、まだまだです。そこで、絵本の読み聞かせの時間に自分と同じように相手にも「きもち」があることをわかって欲しいという保育者の願いから「きもち」という絵本を取り上げてみました。



絵本「きもち」



「どんなお顔？」



「あっ！笑ってる〜！」

「どんな気持ちかな？」

♥ 笑っている顔の時にも、嬉しい・ワクワク・楽しい・ドキドキ・・・などの色々な気持ちがあることを、絵本の絵や言葉で知らせていきました。怒っている時の顔にも、プンプン・悔しい・どうしよう…。悲しい気持ちの時もあることを知らせました。子ども達はじーっと聞き入っています。少し難しい内容の絵本でしたが、子ども達なりに内容を理解してくれたようでした。静かに、そして何か考えているように聞いています。保育者の願い通りに心に響く絵本になってくれたのでしょうか？…



「怒ってるみたい！」



「ねえ…きもち!!」

「悲しい……」

♥ その後、A君が「きもち」の絵本を持って保育者の所にやって来ました。絵本の顔を指さして「悲しい……」と、悲しそうに言っています。悲しいという気持ちが理解できたんですね。その翌日も、また次の日も、A君は「きもち」の絵本を手に取り、ページをゆっくりとめくっていました。心に強く残った1冊になったようです。

1冊の絵本からも、色々なことを子ども達なりに感じて考えて、お友達と話し合ったり保育者に質問を投げかけてみたりして、感じる心や想像力や考える力が育っていきます。

DVD等の映像は流れて過ぎていきますが、絵本は、その時の子どもの興味や疑問に合わせて、立ち止まったり、ページを戻ったりすることが出来ます。絵を指さしながら質問してみたり、繰り返してみたりと、自由に展開できます。お家での読み聞かせの時にも、ぜひ試してみてくださいね。

これからも子どもの気付きや疑問など、子ども達一人一人の思いを汲み取りながら、子どもが自分の思いをしっかりと伝えながらも、同時に相手の思いにも気付いてあげられるようになって欲しいと願っています。私たち保育者が仲立ちしながら友達との関わりを深め、コミュニケーション能力の向上の手助けをしていきますね。